

コンソーシアムに関する誓約書

2021年12月14日

一般財団法人日本民間公益活動連携機構 殿

構成団体の名称 オイシックス・ラ・大地株式
代表者の氏名 高島 宏平

構成団体の名称 ココネット株式会社
代表者の氏名 田口 義隆

構成団体の名称 一般社団法人RCF
代表者の氏名 藤沢 烈

我々3団体は、一般社団法人RCFが資金分配団体としての助成の申請を行うに際し、申請事業を実施するためにコンソーシアムを組成し、下記のとおり誓約します。

なお、この誓約に反したことにより、選定の取り消し等が行われることとなっても、異議は一切申し立てません。また、下記3に記載した誓約書等の内容については、相違ないことを申し添えます。

記

1. 我々3団体は、幹事団体である一般社団法人RCFを通じてコンソーシアム協定書（案）を提出し、一般社団法人RCFが資金分配団体として採択された場合は、一般財団法人日本民間公益活動連携機構と当団体との資金提供契約締結までの間にコンソーシアム協定書を締結します。
2. 本誓約書にて誓約をした構成団体について、申請締め切り後、構成団体に変更があった場合は申請を取り下げます。
3. コンソーシアム構成団体が申請に際して確認した事項等
 - (1) 欠格事由に関する誓約書（別紙1）
 - (2) 業務に関する確認書（別紙2）※要記載項目あり
 - (3) 情報公開同意書（別紙3）

※記入上の注意点

印については、「代表者の印」として印鑑登録済の印を押印してください。

(別紙1)

欠格事由に関する誓約書

コンソーシアム構成団体は、下記1から4のいずれにも該当しないことを確認し、将来においても該当しないことを誓約します。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

記

1. 「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成28年法律第101号）」第17条第3項に掲げる団体で、次のいずれかに該当するもの
 - (1) 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とする団体
 - (2) 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とする団体
 - (3) 特定の公職（公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職をいう。以下この号において同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的とする団体
 - (4) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。（以下（5）において同じ。）
 - (5) 暴力団又はその構成員（暴力団の構成団体の構成員を含む。以下同じ。）若しくは暴力団の構成員でなくなった日から5年を経過しない者の統制の下にある団体
2. 暴力、威力と詐欺的手法を駆使して経済的利益を追求する反社会的団体
3. 指定活用団体の指定、資金分配団体の選定若しくは実行団体の選定を取り消され、その取り消しの日から3年を経過しない団体、又は他の助成制度においてこれに準ずる措置を受け、当該措置の日から3年を経過しない団体
4. 役員のうち次のいずれかに該当する者がいる団体
 - (1) 禁錮以上の刑に処せられ、その刑の執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から3年を経過しない者
 - (2) 「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成28年法律第101号）」の規定により罰金の刑に処され、その刑の執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から3年を経過しない者

※注意点

上記事項を団体において確認した際の根拠資料（例えば、理事等からの提出を受けた誓約書等）がある場合は、当該資料を主たる事務所に10年間保存してください。

業務に関する確認書

コンソーシアム構成団体は、一般社団法人RCFが資金分配団体としての助成の申請を行うに際し、一般財団法人日本民間公益活動連携機構が行う助成対象事業に関して、下記のとおり確認します。

記

1. 一般社団法人RCFが資金分配団体に選定された後の当団体の役員構成が、以下の要件に該当し、助成対象事業の公正な実施に支障を及ぼすおそれがないこと。
 - (1) 各理事について、当該理事及びその配偶者又は3親等内の親族等である理事の合計数が、理事の総数の3分の1を超えないこと(監事についても同様)。
 - (2) 他の同一の団体の理事である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある理事の合計数が、理事の総数の3分の1を超えないこと(監事についても同様)。
2. 当団体は、一般社団法人RCFが資金分配団体に選定された後において、社会的信用を維持する上でふさわしくない業務、又は公の秩序若しくは善良の風俗を害するおそれのある業務は行わないこと。
3. 当団体が行政機関から受けた指導、命令等に対する措置の状況は次のとおりである。

団体名 指導等の年月日	指導等の内容	団体における措置状況
※2 該当なし	※2 該当なし	※2 該当なし

※1 申請の日の属する事業年度に、法令又は法令に基づく行政機関の処分に違反したとして行政機関から受けた指導、命令等(書面によるものに限る。)に対する措置状況を記載してください。また、当該事業年度以前に受けたものでまだ改善がなされていないものも記載してください。

※2 該当がない場合には、「該当なし」と記載してください。

※注意点

一般社団法人RCFが資金分配団体に選定された後に、上記確認事項に反する事実が判明した場合には、虚偽の申請があったものとみなされる可能性がありますのでご注意ください。また、上記事項を団体において確認した際の根拠資料(例えば、理事等からの提出を受けた誓約書等)がある場合は、当該資料を主たる事務所に10年間保存してください。

(別紙3)

情報公開同意書

当団体は、一般財団法人日本民間公益活動連携機構（以下「同機構」という）が行う助成対象事業に関するコンソーシアム構成団体としての助成の申請を行うに際し、その選定結果の如何を問わず、本事業が「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき、この活動資金が国民の資産であることから、「情報公開の徹底」及び「本制度全体の透明性の確保」等が求められていることを、添付資料「選定結果・申請時提出書類の情報公開について」も一読の上理解し、下記について同機構のウェブサイトで公開されることを同意いたします。

なお、申請書類の提出にあたっては同機構の個人情報保護に関する基本方針に同意します。

記

1 選定結果の公表

選定結果の公表時に、幹事団体によって提出された、「団体名」、「所在地」、「申請した事業の名称及び概要」、「代表者名」、「解決すべき社会課題」、「事業期間」、「決定助成額または申請助成額」、「審査コメント」及び「助成額の根拠（資金計画書、事業計画書、評価計画書）※1」を公表すること。

2 申請時提出書類の公開

申請時提出書類（参考資料は除く）の公開時に、幹事団体によって提出された、「公募システムに直接入力する申請情報」、「公募システムに添付する申請書類（助成申請書、資金計画書、役員名簿、情報公開同意書（承諾書）、申請書類チェックリスト、定款、登記事項証明書（全部事項証明書）、事業報告書（過去3年分）、決算報告関連書類（過去3年分）、規程類一式）」を公開すること。

上記に加え、幹事団体によって提出された各構成団体における、「コンソーシアム構成団体についての規程類、規程類に関する必須項目確認書、役員名簿」を公開すること。

※1 選定団体のみ

情報公開同意書添付資料「情報公開同意書」同意前に必ずお読みください
選定結果・申請時提出書類の情報公開について

1. 本資料の位置づけ

本資料は、『2020年度「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく資金分配団体の公募』における選定結果・申請時提出書類の情報公開について、公募要領を補足する資料です。「情報公開同意書」に同意いただく前に、必ずお読みください。

2. 情報公開の考え方

JANPIAでは、公募要領で明示しているとおり、採択・不採択に関わらずすべての選定申請団体の選定結果及び申請時提出書類（参考資料は除く）の情報公開を当機構ウェブサイトで行います。これはこの活動の原資が国民の資産であることに鑑み、「国民への説明責任」を果たすため、「情報開示の徹底」「本制度全体の透明性の確保」等が求められていることに応じるものです。公募の申請に際しては、この考え方への同意を確認するため、「情報公開同意書」をご提出いただきます。

なお、情報公開にあたっては、書類の中にある個人情報や選定申請団体のアイディアやノウハウに係る部分について非公表とすること等により、選定申請団体の権利その他の正当な利益を損ねないよう留意することとなっています。そのため選定結果通知後、すべての選定申請団体宛に情報公開予定の書類データについて公募システムを通じて送信し、公開内容を確認していただいた上、申請時提出書類を公開する予定です。

3. 公開する情報について

(1) 選定結果の公表

選定結果の公表に際しては、申請された情報に基づき、表1の項目を当機構ウェブサイトに公表する予定です。

表1「選定結果の公表」での公表予定項目

公開項目（予定）	
1	申請事業分類
2	事業名 主題
3	事業名 副題
4	団体名 [事業対象地域]
5	代表者名
6	所在地
7	解決すべき社会課題
8	事業の概要（300字以内）
9	事業期間
10	決定助成額または申請助成額
11	審査コメント
12	助成額の根拠（「資金計画書」「事業計画書」「評価計画書」） ※選定団体のみ

(2) 申請時提出書類（参考資料を除く）の公開

選定結果公表後、表2の項目を当機構ウェブサイトで公開する予定です。この公開にあたっては、事前にすべての選定申請団体(幹事団体)に情報公開予定の申請時提出書類について公募システムを用いて送信し、内容をご確認いただきます。

申請時提出書類については、皆さまにご確認いただく段階で「印影」と「個人情報」と判断される情報について、JANPIA事務局で非公開の加工を行う予定です。それに加えて正当な利益が損なわれると判断されるような非公開とすべき情報^{*1}がないか、ご確認をお願いします。また事務局で行った非公開加工が不必要の場合は、合わせてご指摘下さい。

非公開の箇所についてご確認いただくプロセスを経て、団体の皆さまにご了解が得られた書類を当機構ウェブサイトで公開します。

表2「申請時提出書類の公開」で公開予定の資料

n o	書類名
1	公募システムに直接入力する申請情報 [団体情報、担当者情報、事業計画、資金計画（一部）、欠格事由に関する誓約、業務に関する確認、規程類に含める必須項目、個人情報保護に関する基本方針への同意]
2	助成申請書
3	資金計画書
4	役員名簿
5	情報公開同意書（承諾書）
6	申請書類チェックリスト
7	定款
8	登記事項証明書（全部事項証明書）
9	事業報告書（過去3年分）
1 0	決算報告関連書類（過去3年分）
1 1	規程類一式

以上に加え、コンソーシアムで申請の場合	
1 2	コンソーシアムに関する誓約書
1 3	幹事団体以外の各構成団体についての「規程類、規程類に関する必須項目確認書、役員名簿」

※1 統計データなど、すでに一般公開されている情報は非公開とする情報の対象になりません。

以上

コンソーシアム協定書（案）

- ※ 本コンソーシアム協定書（案）は幹事団体が提出してください。
- ※ 黄色ハイライト箇所を記入してください。
- ※ 作成にあたり「コンソーシアム協定書（案）作成における留意点」をご参照ください。

一般社団法人RCF（以下「甲」という。）、オイシックス・ラ・大地株式会社（以下「乙」という。）及びココネット株式会社（以下「丙」という。）は、以下のとおり、コンソーシアム協定書（以下「本協定書」という。）を締結する。

（目的）

第1条

本協定書は、甲及び一般財団法人日本民間公益活動連携機構（以下「JANPIA」という。）の間で2019年●月●日付けで締結された資金提供契約（その後の変更を含む。また、かかる契約に関連して締結される契約、覚書等を含む。以下「資金提供契約」という。）に基づき、甲が、JANPIAからの助成を受けて資金分配団体（民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律第19条第2項第3号口に定めるものをいう。）として実施する別紙1（本事業）記載の事業（以下「本事業」という。）を効率的かつ効果的に実施するためにコンソーシアムを組成すること及び組成したコンソーシアム（以下「本コンソーシアム」という。）の運営等に関する事項を定めることを目的とする。なお、本コンソーシアムは民法上の組合の組成を意図するものではない。

（名称）

第2条

本コンソーシアムの名称は、「WeSupport Family」とする。

（事務所の所在地）

第3条

本コンソーシアムは、事務所を東京都新宿区に置く。

（構成団体の名称等）

第4条

本コンソーシアムの構成団体（以下「本構成団体」という。）は、次のとおりとする。

- (1) 【団体名・代表者名】 オイシックス・ラ・大地株式会社・高島 宏平
【所在地】 東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎イーストタワー5F
- (2) 【団体名・代表者名】 ココネット株式会社・田口 義隆
【所在地】 東京都中央区日本橋人形町一丁目11番2号 川商ビル3階

（代表者及び権限）

第5条

1. 本コンソーシアムの代表者は、[甲]とする。
2. 本コンソーシアムの代表者は、本事業の実施に関して本コンソーシアムを代表し、併せて、本事業の実施その他の本コンソーシアムの運営（以下「本コンソーシアムの運営等」という。）に必要な資金（但し、第10条第3項及び第4項に定める場合に発生する債務、費用その他の支出のために必要な資金は含まれない。以下「本コンソーシアム運営等資金」という。）その他の財産を管理する権限を有するものとする。
3. 本構成団体は、本コンソーシアムの代表者が本コンソーシアムの窓口として第三者と交渉等を行う場合には、その求めに応じて、自らの担当業務（次条第1項で定義される。）に関して必要な協力を行うものとする。

(本構成団体の業務分担)

第6条

1. 本構成団体が本コンソーシアムにおいてそれぞれ担当する業務（以下「担当業務」という。）は、別紙2（各本構成団体の担当業務）のとおりとし、担当業務を変更する必要が生じたときは、運営委員会（次条に基づいて組織される。以下同じ。）の決議により、これを変更することができるものとする。
2. 各本構成団体は、適用のある法令を遵守し、善良なる管理者の注意をもってその担当業務を実施するものとする。
3. 各本構成団体は、運営委員会の決議により承認を得た場合に限り、その担当業務の全部又は一部を第三者に委託することができる。
4. 各本構成団体は、その担当業務の実施状況について、運営委員会の求めに応じて運営委員会に報告するものとする。
5. 各本構成団体は、各事業年度（毎年4月1日から翌年の3月31日までを一事業年度とする。以下同じ。）の終了の日から30日以内に、運営委員会の指定する様式で当該事業年度における業務実施状況に関する報告書（以下「本業務実施状況報告書」という。）を作成して運営委員会に提出し、その承認を得るものとする。

(運営委員会)

第7条

1. 各本構成団体は、その役員又は従業員の中から、運営委員をそれぞれ1名選出するものとし、全ての運営委員をもって運営委員会を組織する。
2. 運営委員会は、各本構成団体の担当業務の進捗状況の管理、監督等を行い、また、本事業の適正な実施及び本コンソーシアムの適正な運営を確保するために必要な体制の整備、運用等を行う責任者を選任するものとする。
3. 各本構成団体は、自らが選出した運営委員をして、善良なる管理者の注意をもって運営委員会の構成員としての職務を行わせるものとする。
4. 運営委員会の招集手続、決議事項及び報告事項、決議の方法、議事録の作成、第2項に定める責任者の選任の方法その他の運営委員会の運営に必要な事項は、別紙3（本コンソーシアム運営規則）に定めるものとする。

(ガバナンス・コンプライアンス体制の整備等)

第8条

1. 本コンソーシアムは、本事業の適正な実施及び本コンソーシアムの適正な運営を確保するために必要な内容を、別紙3（本コンソーシアム運営規則）に定めるものとする。
2. 本コンソーシアムは、各本構成団体の構成員による内部通報制度の利用を促進するため、以下のいずれかの措置を講ずるものとする。
 - (1) 消費者庁が策定する「公益通報者保護法を踏まえた内部通報制度の整備・運用に関する民間事業者向けガイドライン」（平成28年12月9日）（その後に改定があった場合には改定後のものを指す。以下「内部通報ガイドライン」という。）を踏まえた内部通報制度の整備及び運用
 - (2) 各本構成団体の構成員に対し、JANPIAに設置されている内部通報制度の存在、利用方法等を周知するとともに、当該内部通報制度の利用者の保護のために必要な事項を定めること
3. 本コンソーシアムは、本協定書（別紙を含む。）及び運営委員会の議事録について、第三者から正当な理由に基づく開示の請求を受けた場合には、JANPIAの休眠預金助成システムを通じて、当該第三者にこれを開示するものとする。
4. 本コンソーシアムは、前項に定める開示を行う場合の具体的な手続その他前項に定める開示を行うために必要な事項を定めるものとする。
5. 本コンソーシアムは、各本構成団体又はその構成員による、本コンソーシアム運営等資金の本コンソーシアムの運営等以外の目的での使用その他本コンソーシアム運

営等資金の不正使用その他の違法若しくは不正な行為（本事業に関するものに限られない。）の疑いが合理的に認められた場合には、JANPIAにその概要（かかる違法若しくは不正な行為を行った本構成団体又は構成員の所属する本構成団体の名称を含む。）を報告するものとする。また、かかる場合、本コンソーシアムは、上記概要を自らのWebサイト上で広く一般に公表することができるものとし、各本構成団体はこれに協力するものとする。

（会計）

第9条

1. 本コンソーシアム運営等資金は、資金提供契約で定められた本コンソーシアムの代表者の「指定口座」（以下「本口座」という。）において管理するものとする。
2. 本コンソーシアムの代表者は、本口座において、本コンソーシアム運営等資金及び資金提供契約において管理を行うことが認められた金銭以外の金銭の管理を行ってはならないものとする。
3. 本コンソーシアムの代表者は、やむを得ない事由があるとJANPIA及び運営委員会が認めた場合を除き、本口座から現金の出金を行わないものとし、原則として、本口座からの支出（本コンソーシアムの運営等のための各本構成団体に対する支出を含む。）は振込みによって行うものとする。
4. 本コンソーシアムの代表者は、前項の規定に基づいて本口座から現金の出金を行う場合には、資金提供契約に定める方法により、本口座から出金した現金の額、出金の日時及び目的その他JANPIAが出金の内容を把握するために必要な事項を、現金出納帳その他の書類に記録するものとする。
5. 本コンソーシアムの代表者は、本コンソーシアムの運営等に係る会計帳簿を作成して、本コンソーシアムの運営等の収支状況等を適時かつ正確に記録しなければならず、会計帳簿の作成後10年間、これを本コンソーシアムの代表者にて保管するものとする。

（本構成団体の責任）

第10条

1. 各本構成団体は、本コンソーシアム運営等資金について、本コンソーシアムの運営等のためにのみ使用するものとし、それ以外の目的で本コンソーシアム運営等資金を使用してはならないものとする。
2. 各本構成団体は、他の本構成団体と連帯して本コンソーシアムの運営等を行うものとし、他の本構成団体がその担当業務を実施すること又は完了することが困難と合理的に認められる場合には、当該他の本構成団体の担当業務について、運営委員会の決議に従って、これを実施するものとする。
3. 各本構成団体は、本コンソーシアムの運営等に関して自らが実施した業務（その担当業務に限られない。本項において以下同じ。）について、一切の責任を負うものとし、これに関連して第三者との間で紛争が生じた場合、自らの責任と費用負担において当該紛争を解決するものとし、他の本構成団体は当該第三者に対して、一切の責任を負わないものとする。
4. 甲が、本コンソーシアムの運営等に関して、その責めに帰すべき事由によらずに損害を被った場合（本コンソーシアムの運営等に関して損害を被った第三者に甲が補償を行ったことにより、甲が他の本構成団体に対して求償債権を取得した場合を含む。）、甲以外の本構成団体（以下「非代表団体」という。）は、連帯して、甲に対してその損害を負担する責任を負う。

（非代表団体のガバナンス・コンプライアンス体制の整備等）

第11条

1. 各非代表団体は、本事業の適正な実施及び本コンソーシアムの適正な運営を確保するため、次の各号に掲げる措置を講じなければならない。
 - (1) 本事業の適正な実施及び本コンソーシアムの適正な運営を確保するために必要な体制の整備、運用等（諸規程の整備及び運用を含むが、これに限られない。）を

- 行う責任者を設置すること
- (2) 資金提供契約に基づき甲が備えている諸規程と同等の内容の規程を備えること
2. 各非代表団体は、各非代表団体の構成員による内部通報制度の利用を促進するため、以下のいずれかの措置を講ずるものとする。
- (1) 内部通報ガイドラインを踏まえた内部通報制度の整備及び運用
- (2) 各非代表団体の構成員に対し、JANPIAに設置されている内部通報制度の存在、利用方法等を周知するとともに、当該内部通報制度の利用者の保護のために必要な規程の整備をすること

(脱退等)

第12条

1. 本構成団体は、本協定期間（第17条第1項で定義される。以下同じ。）内においては、次項又は第3項に定める場合を除き、本協定書の解除により本構成団体であることを辞めること（以下「脱退」という。）ができないものとする。
2. 前項の規定にかかわらず、脱退を希望する本構成団体（以下「脱退希望団体」という。）は、他の全ての本構成団体の書面による同意を取得し、かつ、その担当業務を適切に実施することが可能な第三者又は他の本構成団体が、脱退希望団体の本協定書上の地位を承継することを承諾していることを条件に、脱退することができるものとする。
3. (i)本構成団体が、本協定書上の義務に違反したこと、財産状況の悪化等により担当業務の実施が困難となったことその他の事情により、本構成団体が本コンソーシアムの構成団体であることが相当でなくなったと認められる場合（(ii)に該当する場合を除く。）には、運営委員会の決議により、(ii)本構成団体が、第15条第1項、同条第2項又は同条第3項の規定に違反したと甲が合理的に認めた場合には、甲の決定により、それぞれ、当該本構成団体（以下「不相当団体」という。）を脱退させることができるものとする。
4. 前項の規定により不相当団体を脱退させる場合には、不相当団体以外の本構成団体（以下「残存団体」という。）は、運営委員会において、各本構成団体の担当業務の変更、不相当団体の担当業務を適切に実施することが可能な、残存団体のいずれか又は第三者への不相当団体の業務の承継（これに必要な本協定書の当事者又は内容の変更を含む。）等、不相当団体の脱退後の本コンソーシアムの運営等の継続について必要な事項について協議を行うものとする。
5. 不相当団体は、その業務の承継に関し、残存団体から求められた場合にはこれに協力するものとする。なお本項の義務は、脱退の効力発生後も存続する。
6. 第4項の規定は、本構成団体が本協定期間内において解散又は消滅した場合に準用する。

(資料の提供)

第13条

各本構成団体は、本業務実施状況報告書、第9条第5項に基づいて作成された会計帳簿その他の本コンソーシアムの運営等に関連して作成又は整理された書類を、甲が、その裁量により、又はJANPIAの求めに応じて、JANPIAに提供することを承諾し、これに協力するものとする。

(秘密保持)

第14条

1. 本協定書において秘密情報とは、一方当事者（以下「開示当事者」という）が他方当事者（以下「受領当事者」という）に対して、本コンソーシアムの運営等に関して、文書、口頭、電磁的記録媒体その他開示の方法及び媒体を問わず、また、本協定書締結の前後を問わず、開示した一切の情報（本協定書の存在及び内容、本事業の実施の事実及びその結果並びに本構成団体が保有する技術上及び業務上の情報（アイデア、ノウハウ、発明、図面、仕様、データ等）を含むが、これらに限定さ

れない。)をいう。但し、次の各号のいずれかに該当するものについては、秘密情報に含まれないものとする。

- (1) 開示された時点において、既に公知の事実であった情報
 - (2) 開示された時点において、受領当事者が既に了知していた情報
 - (3) 開示された後に、受領当事者の責めに帰すべき事由によらず公知となった情報
 - (4) 受領当事者が秘密保持義務を負うことなく、開示当事者に対して秘密保持義務を負わない正当な権限を有する第三者から適法に取得した情報
 - (5) 開示された後、受領当事者が秘密情報を使用することなく独自に開発した情報
2. 受領当事者は、秘密情報について厳に秘密を保持するものとし、開示当事者の事前の書面による承諾なしに第三者に対して開示又は漏洩してはならないものとする。
 3. 前項にかかわらず、受領当事者は、本コンソーシアムの運営等に必要範囲のみにおいて、自己の役員及び従業員並びに弁護士、公認会計士、税理士その他のアドバイザーであって、秘密情報を知る必要のある者に対して、秘密情報を開示することができるものとする。
 4. 受領当事者は、前項の規定に基づき秘密情報の開示を受ける第三者が法律上守秘義務を負う者でないときは、本協定書に定める秘密保持義務と同等の秘密保持義務を当該第三者に課して、その義務を遵守させるものとし、かつ、当該第三者においてその義務の違反があった場合には、受領当事者による義務の違反として、開示当事者に対して直接責任を負うものとする。
 5. 第2項の規定にかかわらず、受領当事者は、法令又は裁判所、監督官庁、金融商品取引所その他受領当事者を規制する権限を有する公的機関の裁判、規則若しくは命令に従い必要な範囲において秘密情報を公表し、又は開示することができる。但し、受領当事者は、かかる公表又は開示を行った場合には、その旨を遅滞なく開示当事者に対して通知するものとする。

(反社会的勢力の排除)

第15条

1. 各本構成団体は、自ら並びにその役員、その経営に実質的に関与している者及び従業員が、現在、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ又は特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（これらを総称して以下「反社会的勢力」という。）に該当しないこと及び次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを保証する。
 - (1) 反社会的勢力が経営を支配していると認められる関係を有すること
 - (2) 反社会的勢力が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
 - (3) 自ら若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に反社会的勢力を利用していると認められる関係を有すること
 - (4) 反社会的勢力に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
 - (5) 反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有すること
2. 各本構成団体は、自ら又は第三者を利用して次の各号のいずれかに該当する行為を行わないことを保証する。
 - (1) 暴力的な要求行為
 - (2) 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - (3) 本コンソーシアムの運営等（疑義を避けるため、自ら又は他の本構成団体の担当業務を含むものとする。）に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
 - (4) 風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて他の本構成団体の信用を毀損し、又は他の本構成団体の業務を妨害する行為
 - (5) その他前各号に準ずる行為
3. 各本構成団体は、前二項に違反する事項が判明した場合には、直ちに他の本構成団体に対して書面又は電子メールでその旨を通知するものとする。

4. 各本構成団体は、他の本構成団体が前三項の規定に違反した場合には、これにより自らが被った損害の賠償を請求することができる。
5. 本コンソーシアムは、本事業の適正な実施及び本コンソーシアムの適正な運営を確保するための措置（警察庁への照会を含むが、これに限られない。）を講ずるため、各本構成団体に対して、各本構成団体の役員に関する情報の提供その他必要な協力を求めることができるものとし、各本構成団体はこれに応じるものとする。
6. 各本構成団体は、第12条第3項の規定により本条第1項から第3項までの規定に違反した本構成団体を不相当団体として本コンソーシアムから脱退させた場合、それにより、当該不相当団体が損害を被ったとしても、その損害を賠償する責任を負わないものとする。

（譲渡禁止）

第16条

各本構成団体は、本協定書に定める場合を除き、他の全ての本構成団体の事前の書面又は電子メールによる承諾なく、本協定書上の地位並びに本協定書に基づく権利及び義務を第三者に譲渡若しくは承継させ、又は担保設定その他の処分をしてはならないものとする。

（有効期間）

第17条

1. 本協定書の有効期間（以下「本協定期間」という）は、本協定書の締結日から2023年3月31日、甲が本事業が完了したと判断した日又は本コンソーシアムが解散した日のいずれか早い日までとする。
2. 前項の規定にかかわらず、本協定書が終了（その原因を問わないものとする。）した後においても、第9条第5項、第10条第2項から第4項まで、第13条から前条まで、本条第2項、次条第2項、第19条、第21条並びに第22条の規定は有効に存続するものとする。

（解散等）

第18条

1. 本コンソーシアムは、次の各号のいずれかに該当した場合に解散するものとする。
 - (1) 本協定期間が満了した場合
 - (2) 甲が本コンソーシアムから脱退した場合
 - (3) 運営委員会が本コンソーシアムの解散を決議した場合
2. 本コンソーシアムが解散した場合、解散の時点で残存する本コンソーシアム運営等資金その他の本コンソーシアム運営等に係る財産は、全て甲に帰属するものとする。

（本協定書に定めのない事項）

第19条

本協定書に定めのない事項については、運営委員会において定めるものとする。

（本協定書の修正及び変更）

第20条

本協定書を修正又は変更するには、本構成団体全員の書面による合意を要するものとし、本協定書を修正又は変更した場合、甲は、当該書面の副本1通をJANPIAに提出するものとする。

（管轄裁判所）

第21条

1. 本協定書は、日本法を準拠法とし、日本法に基づき解釈されるものとする。

2. 本構成団体の間で生じる本協定書に関する一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

(疑義の解決)

第22条

本協定書の解釈に関して疑義が生じた事項については、各本構成団体は誠意をもって協議のうえ、円満に解決を図るものとする。

本協定書締結の証として、本協定書の正本3通及び副本1通を作成し、各本構成団体が記名押印の上、正本については各本構成団体が各1通を保有し、副本については1通をJANPIAに提出する。

年 月 日

甲：

(所在地) 東京都新宿区市谷八幡町2-1 DS市ヶ谷ビル3F

(名 称) 一般社団法人RCF

(代表者) 藤沢 烈

構成団体：

(所在地) 東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎イーストタワー5F

(名 称) オイシックス・ラ・大地株式会社

(代表者) 高島 宏平

構成団体：

(所在地) 東京都中央区日本橋人形町一丁目11番2号 川商ビル3階

(名 称) ココネット株式会社

(代表者) 田口 義隆

別紙1（本事業）

第1条 本コンソーシアムは、次の各号に掲げる事業を行う。

(1)母子家庭、失業者、貧困生活者等の困窮世帯に対して、食品を提供することにより、さまざまな家庭環境の子ども・若者を地域で支える。

(2)品質に問題がないにもかかわらず、市場で流通できなくなった食品や在庫貯蔵品、廃棄予定品を配布することにより、生活困窮者等の支援を行うとともに、食品ロスの削減に貢献する。

(3)資金分配団体として、実行団体への伴走支援、本事業実施に係る評価及び報告、また本事業の情報公開に係る広報を行う。

(4)その他前条の目的を達成するために必要な事業に関するを行う。

2. 前項各号の事業は、本邦において行うものである。

別紙2（各本構成団体の担当業務）

（甲の業務）

第1条 甲は、本事業において以下の業務を行う。

- (1)本事業の資金分配団体として、支援先である実行団体から情報を収集し、食支援へ向け各構成団体へ情報提供すること
- (2)本事業の資金分配団体として、実行団体に向けた伴走支援を実施すること
 - i 事前評価、事後評価の実施についての支援
 - ii 事業の実施状況、取り組み事例の共有に資する情報公開等

甲は、乙丙に対し、支援先である実行団体の情報を適切に収集把握し、共有したことを保証する。

（乙の業務）

第2条 乙は、本事業において以下の業務を行う。

- (1)本事業に賛同する企業・団体等（以下、「サポート企業」という。）との間で別途契約を締結することにより食品を調達すること（サポート企業より調達した食品を、以下、「調達食品」という。）
- (2)本事業の資金分配団体として、実行団体に向けた伴走支援を実施すること
 - i 月1回の実施状況の確認と事業実施に関する助言等
 - ii 事業の実施状況、取り組み事例の共有に資する情報公開等

（3）その他サポート企業との連絡及び調整

乙は、サポート企業との契約において、調達食品が食品衛生法その他適用される法令に適合する（賞味期限または消費期限内であることを含む）ことを保証させるものとする。乙の責めに帰すべき事由により、調達食品に関し、サポート企業と乙の間、または支援先と乙の間で紛争が生じた場合は、乙の責任と費用でこれを解決するものとし、甲及び丙は紛争解決に協力するものとする。

（丙の業務）

第3条 丙は、当事者間で協議の上指定する者の倉庫において調達食品を保管・管理（消費期限及び賞味期限の確認、温度管理を含む）させ、別途協議し決定した日程および方法で食品を支援先である実行団体に配送する。

丙又は当事者間で協議の上指定する者の責めに帰すべき事由により調達食品に関し、支援先又は第三者との間で紛争が生じた場合は、丙の責任と費用でこれを解決するものとし、甲及び乙は紛争解決に協力するものとする。

別紙3（本コンソーシアム運営規則）

運営委員会に関する規程

（審議事項）

第1条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1)本事業の企画立案及び調整に関すること
- (2)各本構成団体の連絡調整に関すること
- (3)その他コンソーシアムの事業運営に関すること

（招集）

第2条 運営委員会は当該委員会の責任者（以下、「責任者」という。）が招集する。

（開会及び議事）

第3条 運営委員会は構成員の過半数を定足数とし、議事は出席者の過半数の賛成によって決する。

（議長）

第4条 責任者は、第1回運営委員会において各本構成団体から自薦及び他薦に基づく合議にて選出する。

（議事録）

第5条 運営委員会の議事要旨及び議事録については、終了後速やかに事務局が作成する。

ガバナンスコンプライアンスに関する規程

利益相反防止に関する事項

（自己申告）

第6条 構成員は、名目又は形態の如何を問わず、新たに本コンソーシアム以外の団体等の役職を兼ね、又はその業務に従事すること（以下「兼職等」という。）となる場合には、事前に責任者に書面で申告するものとする。

2. 前項に規定する場合のほか、本コンソーシアムと構成員との利益が相反する可能性がある場合（本コンソーシアムと業務上の関係にある他の団体等に構成員が関係する（兼職等を除く。）ことによってかかる可能性が生ずる場合を含むが、これに限られない。）に関しても前項と同様とする。

3. 構成員は、原則として、次に掲げる行為を行ってはならず、やむを得ない理由によりかかる行為を行う場合には、事前に責任者に書面で申告するものとする。

(1)本コンソーシアムが、休眠預金等交付金に係る助成金を受ける場合、その助成金の支給に関わる団体（以下「助成金関係団体」という。）又はこれになり得る団体の構成員又はこれに準ずるものに就くこと。ただし、やむを得ない事情があると認められるときは、この限りでない。

(2)資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるもの対し、物品又は不動産の贈与（せん別、祝儀、香典又は供花その他これらに類するものとして提供される場合を含む。）をすること。ただし、本コンソーシアム又は構成員の負担の有無にかかわらず、資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるもの対し、物品若しくは不動産を購入若しくは貸与をさせた場合又は役務を提供した場合において、それらの対価が無償又は著しく低いときは、相当な対価の額の金銭の贈与をしたものとみなす。

(3)資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるもの対し、金銭の貸付け（業として行われる金銭の貸付けは、無利子のもの又は利子の利率が著しく低いものに限る。）を行うこと。

(4)資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるもの対し、未公開株式を譲り渡すこと。

(5)資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるもの対し、供応接待を行うこと。

(6)資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるものと共に遊技又はゴルフをすること。

(7)資金分配団体又はその構成員又はこれに準ずるものと共に旅行（業務のための旅行を除く。）をすること。

（定期申告）

第7条 構成員は、兼職等の状況その他前条の規定に基づく申告事項の有無及び内容について、責任者に書面で申告するものとする。

（申告後の対応）

第8条 前7条の規定に基づく申告を受けた責任者は申告内容の確認を徹底した上、運営委員会にて協議の上、必要に応じ、速やかに当該申告を行った者に対して、本コンソーシアムとの利益相反状況の防止又は適正化のために必要な措置を求めるものとする。

コンプライアンスに関する事項

（コンプライアンスに関する構成員の責務と責任者）

第9条 構成員は、本コンソーシアムにおけるコンプライアンス（本コンソーシアム又は構成員等が本コンソーシアムの業務遂行において法令（本コンソーシアムの定款、規則・規程、運用基準等を含む。以下同じ。）を遵守することをいう。以下同じ。）の重要性を深く認識し、常に公平かつ公正な業務の遂行に努めなければならない。

2 責任者を、コンプライアンスの推進について最終責任を負う者とする。

（不正発生時の原因究明、処分、再発防止策と公表）

第10条 コンプライアンス違反事件が発生した場合は、迅速に次の対応を行う。

(1)コンプライアンス違反事件について原因の究明に向けた分析・検討

(2)コンプライアンス違反関係者の厳格な処分の検討及び再発防止策の策定

(3)原因究明に向けた分析及び検討結果並びに職員の処分及び再発防止策の公表

公益通報者保護に関する事項

（公益通報制度）

第11条 本コンソーシアムは、不正行為による不祥事の防止及び早期発見、自浄作用の向上、風評リスクの管理及び本コンソーシアムに対する社会的信頼の確保のため、公益通報制度を設ける。

（相談窓口及び通報窓口）

第12条 本コンソーシアムは、構成員が不正行為等の相談・通報するための窓口を設ける。

2 構成員はJANPIA資金分配団体等構成員専用ヘルプラインに相談・通報することができる。

（不利益処分等の禁止）

第13条 本コンソーシアムの構成員は、通報者等が通報等を行ったこと、通報者に協力したこと又は通報等に基づく調査に積極的に関与したことを理由として、通報者等に対する懲罰、差別的処遇等の報復行為、人事考課におけるマイナス評価等、通報者等に対して不利益な処分又は措置を行ってはならない。

（開示対応）

第14条 第三者から正当な理由に基づき、本協定書（別紙を含む。）及び運営委員会の議事録の開示の請求を受けた場合には、責任者が当該書類を保有する各本構成団体または構成員へ指示を行い、責任者の責任を以って開示を行う。

経理に関する事項

（会計区分）

第15条 本コンソーシアムの会計について、法令の要請等により必要とされる場合は、会計区分を設けるものとする。

（勘定科目の設定）

第16条 本コンソーシアムの会計においては、財務及び会計のすべての状況を的確に把握するため必要な勘定科目を設ける。

（会計帳簿）

第17条 本コンソーシアムの会計伝票及び帳簿は、次のとおりとする。

(1) 会計伝票

ア 仕訳伝票

(2) 会計帳簿

ア 総勘定元帳

イ 補助元帳

以上